

子どもの成長に 豊かな環境体験を



PLT（木と学ぼう）

幼児期の環境体験指導者養成講習会

2011年8月7日 アイパル香川

PLT（木と学ぼう）幼児期の環境体験指導者講習会 in 高松 2011 の記録

日時：2011年8月7日（日） 10：00～16：30 5.5時間

会場：香川県国際交流センター アイパル香川 第3会議室

受講料：3500円（テキスト代、保険代、資料代等を含む）

講師：井上博夫（環境カウンセラー、高松市公立学校特別非常勤講師）

参加者：高知県、兵庫県、香川県より14名（欠席2名）

設営：8：30～9：30 撤収：16：30～17：00

プログラム：

- 9：30 受付
- 10：00 開始
- 10：05 アイスブレイク
- 10：20 アクティビティの体験（ものの形、まわりの音、つぼみが開く）
- 11：00 休憩
- 11：05 PLTの目的と経緯、ガイドの使い方
- 11：20 木と仲良くなるための基礎知識
- 11：50 テキストを読む（本のインタビュー）
- 12：05 アダプト・アクティビティの選択
木に触れよう・秋の知らせ・冬の常緑樹・里木・生息地としての木・
木に三回乾杯しよう
- 12：10 昼食休憩
- 13：00 各班の作戦タイム、小道具づくり
- 14：00 アダプト・アクティビティの実施
（30分×4班：準備5分+実施20分+評価5分）
- 16：00 休憩
- 16：05 全体のふりかえり
- 16：20 修了証授与、アンケートの実施、記念写真
- 16：30 終了、片付け、解散

〈実施内容と流れ〉

設営時、木幹だけの木を描いた用紙や世界の植物群系地図などを壁に貼り、参考図書や小道具などグッズを配し、椅子を輪にセッティング。冷やしたお茶とお菓子を用意。受付時に緑の葉のポストイットと名札、資料を渡す。BGMとしてEEを流す。

まず、参加者に今日の目的を緑の葉に一言書いてもらい、木幹だけの絵に貼り付けてもらう。今日の大まかなスケジュールと施設の説明のあと、共に学びあうための心がけを読み上げ時間を共有する。



■ 準備物 1



■ 準備物 2



■ 参考図書



■ 木のお面など



■ 葉っぱの形うちわ



■ ミツバチと花など



■ 双眼鏡、レインステック



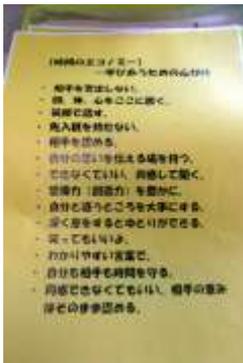
■ 木肌、葉っぱのフロッタージュ



1. アイスブレイク：

デートゲームのアイスブレイクからスタート。2名の欠席と3名の遅刻ということもあり、11名であったため、受付スタッフに入ってもらおう。テーマは、マイブーム、私の得意技、好きな木とし、曜日指定しながら、自己紹介。7名の方とデートを楽しむ。終わったら輪になり、1日目の相手の他己紹介。この時間は長くとったほうがよさそうと思ったので25分まで続けた。和やかな雰囲気になったころ、「ものの形」から体験してもらおう。

※遅れてきた方は、その都度、自己紹介をしてもらった。



2. ものの形：

絵本「みんな、ぜんぶ、いろんな」を使って、私たちの周りには、さまざまな色や形があることを示した上で、木の葉も大きさも形もいろんなものが存在すること認識させる。絵本「き」より、とがった葉っぱ、手のひらのような葉っぱ、小さい葉が集まった大きな葉っぱなどを見せながら、これから木の葉の形を覚えてもらうリズムセッションを行うことを告げる。ここで、うちわに描いたサクラ、サルトリイバラ、モミジ、タラなどを見せ、葉の形の概要を説明する。サルトリイバラは、四国では柏餅の葉として知られているが、四国にカシワの木は自生しないこと、形はこんな葉っぱと別のうちわで解説（カシワ）。モミジは、秋になると何色になる？赤くなる。では、黄色くなる葉っぱは？イチョウ。さて、ここでサクラの葉を上げたら、胸の前で2回手をたたく、サルトリイバラは、両ももを2回、モミジは、右のお尻2回、タラは、胸をゴリラのようにたたくことを指示し、覚えさせる。練習した後、ランダムのうちわ

を上げながら「体だ楽器」でリズムを刻む。次は、少し難しくするよといいながら、イチョウは、左のお尻 2 回、マツは、何にもしないとうちわを 2 個増やし、同じように数回リズムを刻む。間違えたりしながら葉っぱの形を覚える。今度、散歩の途中で気に入りの木を見つけたら、どんなカタチの葉っぱなのか調べてみてね。で終わる。そのときに、タラのうちわを使ってかぶれ易い木の特徴をリスクマネジメント。※絵本は、ERIC NEWS 第 59 号の「木と草どっち？」にも使えて便利。

私は、生物の多様性にも使っている。



3. まわりの音：

いろんな葉っぱがあったね。実は、音もさまざま。これからある音を聞いてもらうから、あとでどんなところのどんな音なのか教えてねといいながらCDトラック 3 をかける。聞いた後、どこで何をしていた？どんな音？と問いかけ、参加者とキャッチボール。では、この音はどうか？と聞いてトラック 4 をかける。そして、参加者とキャッチボールをしながら、最初に聞いた音との違いを問いかけながら人工と自然の音の違い、昼と夜の違いなどを参加者から引き出す。人工の音は、私たちの生活と深い関係があるよね。では、今からサウンドマップづくりをしたいと思いますといって、デートゲームで使ったシートの裏を見せる。CPO10のマークがあるところが皆さんのいるところ。これから 2 分間目を閉じて、この周辺の音を聞いてもらいます。その後で聞こえてきた音をことばではなく、感じたままを模様のように描くことを指示する。ネイチャーゲームに同じものがあるよね。描けたら、隣同士で見せっこ。感じたこと、気づいたこと、学んだことなどを話してもらう。その後で、全員一歩前に集まってポジションを変えずにそのシートを床に並べてみる。同じ方向の音でも表現が違うこと、特徴のある音は？気づかなかった音など場を共有しながら意見交換。私たちは、普段なにげなく音を聞いている。しかし、気持ちを向けると結構拾えるよねと話しながら「音の役割って何？」と投げかける。情報の伝達手段ってのもあがる。じゃ声も音だよ。「声ってなァに？」いろんな音が出せるね。言語、コミュニケーション手段、意思の伝達手段、メッセージを伝える音。すばらしい！私たちは、さまざまな音を聞き分ける能力を持っている。

「みみをすます、きのうのあまだれにみみをすます…」谷川俊太郎の詩を読もうと用

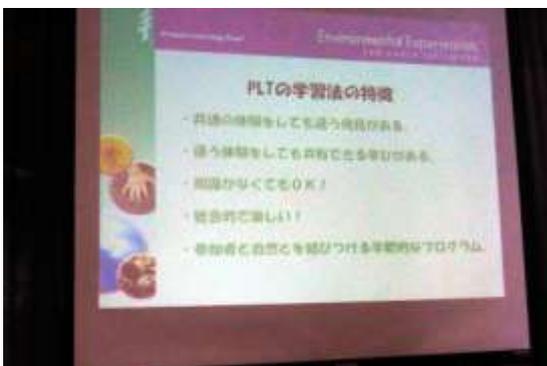
意していたが時間が押してしまったので削除した。

※ 「つぼみが開く」「わたしたちみんなに木が必要」どちらかもう1つ実施したかったがアイスブレイクに時間を要した分、カットした。実は、ハチになって5分ぐらい飛んでもらおうと思っていたのですが…（笑）導入でCDがなければ、鈴やカップ、10円玉などを見えないところで床に落とし、何か当ててもらってから始めてもいいかなとふと思った。



4. PLTの目的と経緯、ガイドの使い方

休憩中にPPTを用意。プロジェクターで解説。リチャード・ループ著「あなたの子どもには、自然が足りない」を紹介。ガイドの米国版もファイルで閲覧できるようにした。参考図書の横に並べる。



5. 木に関する基礎知識

木と仲良くなるために知っておきたい基礎知識をフリップやイラスト、写真などを織り交ぜて紹介する。「木って何?」「木の食べ物?」「木のからだ」「どこで育つ?」「高い木、低い木」「針葉樹と広葉樹」「常緑樹と落葉樹」「森林の働き」「木のタイプ」について興味をくすぐりながらレクチャア。世界一や日本一の木も紹介。



6. テキストを読む（本のインタビュー）

各自が自分の知りたいことやアクティビティの内容などについて概要を読み取る時間を用意。質問や隣同士で相談も可とする。



7. アダプト・アクティビティの選択

「木に触れよう」「秋の知らせ」「冬の常緑樹」「里木」「生息地としての木」「木に三回乾杯しよう」の中から1班3～4人とし、自由選択、早い者勝ちで選ばせた。

結果発表：実施順は、①～④

②木に触れよう：合田・香川・原田 実施場所：屋外

④秋の知らせ：山神・平井・津川・池田 実施場所：屋内

①里木：矢本・青木・伊予木・片山 実施場所：屋外

③生息地としての木：森永・山口・三浦 実施場所：屋外と屋内

アダプト・アクティビティを行う意図の説明。幼稚園の時間割1コマ30分であることから1班の持ち時間30分とした（準備、実施25分＋評価5分）。

評価のポイント「楽しかったか」「夢中になれたか」「体や心が動いたか」この3点。感じたこと、気づいたこと、学んだことについて班で共有し、ふりかえりは、個々でノートテーキングとした。3月に体験した手法をそのまま応用。昼休みの時間も有効に使うためのお弁当。公園の樹木地図を配布。移動範囲を指定。移動を含めての30分であることを説明。

午後2時、①班から始めること、それまでは作戦タイムとすることなどを告げる。



8. 昼食休憩

1人を除き弁当持参で、昼休みに下見、場所の選定、小道具づくりに入る。不安な班は、講師がフォローする。会場が公園内にあるのでさまざまな木々に囲まれており、講義室横のE Vで降りたところが即公園という立地条件。Good!

小道具づくりには、見本などを用意。紙袋のお面、トイレットペーパー芯の双眼鏡、ミステリーBOX、ラミネート資料、レインステック、手作りマラカス、楽器などの他、色画用紙、クレヨン、マーカー、はさみ、のりなど文具類 1 式。絵本など参考図書、常緑・落葉の葉の標本やことば銀行も。



9. アダプト・アクティビティ

実施する順番は、個々の場所をお聞きして効率よく回れるようにした。

①「里木」:

♪大きな〇〇の木の下で、あなたとわたし、仲良くあそびましょう。〇〇〇〇と書いたシートを参加者に渡し、それぞれのグループでお気に入りの木を探し、木肌や葉っぱを紙にプロッターシュしながら観察して、シートの〇〇を埋める。それを歌いながら披露することを告げる。最後の〇〇はその木の特徴を現すことが条件。

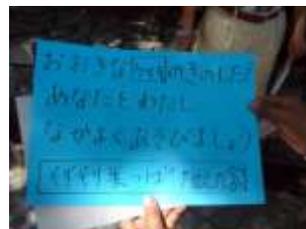
グループ1:「ケヤキ」「ギザギザ葉っぱとセミの家」

グループ2:「クロガネモチ」「テカテカ葉っぱで大金持ち」

グループ3:「クス」「葉っぱがちょっと臭いです」

各班、プロッターシュの作品を披露した後、替え歌を披露する。22分。

※屋外では、活動範囲の指定、リスクマネジメントが必要。人数の確認、作業時間や集合場所の指定。葉っぱを採った方がいたが採らずに持ち帰るのがプロッターシュ。絵や文字が苦手でもOK。替え歌はいいアイデア。



②「木に触れよう」:

唐突に木の精が現れて、木に触れて木肌や匂いをかいだりして遊ぼうと誘いをかける。えらい年寄りの木やな。ほっとけ、気のせいじゃと笑いを誘う。木の精が引っ込み、次にミステリーBOXを抱え、今からこの中にあるものを触って何か当ててくださいと参加を募る。入っているものは人工のもの。一通り触ったら、今度は、目隠しイモムシで、ある木を触ってもらうことを告げ、バンダナで全員に目隠しをするように指示する。スタッフは各班に1名つき先導しながら目的の木に誘導する。目的の木に到着したら触覚、嗅覚、聴覚を使ってその木を観察させ、元の場所へ再び誘導する。バンダナを取り、何の木、どの木だったか、感想を聞く。ザラザラ、フワフワ、デコボコ、ツルツルなどの感触を話してもらい、種明かし。3種類の木を触る。クスノキ、ハリエンジュ、ヤブツバキ。樹種によって肌触りが違うことを知る。22分。

※始めにリスクマネジメントが必要。人数の確認や危険な生き物、かぶれ易い木など。ことば銀行のシートを使えばよい。MBOXの人工物との比較が欲しいね。MBOXの簡単な作り方を披露（厚手の靴下+プラスチックのコップ）。ネイチャーゲームの応用ですね。触らせるなら3班同じ種でもよかったね。大きさや樹齢、部位によって肌触りが違うから。クスノキだけでもよかったのでは。



③「生息地としての木」:

イヌビワの木の前で、1本の木は、さまざまな命とつながっていますとって木の命のつながりのフリップを見せる。今からこの木を観察してどんな生き物がいたのか、また痕跡など各班10個探して絵に描いてくださいと指示する。描いたら一緒に部屋に戻って発表します。暑いから早く探して部屋に戻りましょう。蚊がいるから虫除けスプレーがあるよ。実もなっているね。食べられるそうです。班毎に木の葉や落葉などをこまかく観察させる。葉をちぎる方も。A4シートに絵を描く。生きものを捕まえる班もある。12分後、部屋に戻る。班毎に発表。

グループ1：実が熟しアリや甲虫。葉が虫に食われていたなど。

グループ2：カメムシ、コオロギ、ナメクジ、ダンゴムシ、アリ、葉の食痕など。

グループ3：虫のフン、アブラムシ、マメコガネ、ハチ、アリ、カなど。

小さな木でもいろんな生きものが利用していることがわかりました。木はさまざまな命とつながっています。木は地球の生きものを育てています。大切にしましょう。23分。

※やっとリスクマネジメントらしきことばが聞けましたが、公共のものでしたら折らないで。選定した果木がよかったですね。観察で10個は多いかな。3つぐらいに。イヌビワを食べさせるときは、アレルギーがあるかどうか確かめて。場所を移動する場合は、必ず人数確認を。せっかくスケッチさせたのだから日付と場所、時間、木の名前、班名などを記入させれば記録として残せます。できれば私たちとのつながりも発見できればいいですね。なぜ、この木がここにあるのか。都市公園です。人が植えたんですね。植物の名に動物の名前がつくと役に立たないという意味です。



④「秋の知らせ」:

部屋で参加者を半円形にさせる。初秋という季節の設定を説明。家の周りとか森の様子で何か変わったことはないですか。葉っぱの色が変わった。何色に変わった。赤。実がなっていた。何それ。柿。どんぐり拾った。みんないい子ね（笑）。昼休みに葉っぱを拾ってきましたといって新聞紙に広げる。（夏だけど、常緑樹の黄色や赤の古葉を効果的に利用）みんな触ってみて。一斉に触る。この中から好きな葉を1枚取り、色紙や画用紙でそれと同じものを作ってみよう。個々で色紙などを切り抜く。クレヨンで色づけ。みんなできた。できたら、この木の妖精（スタッフが紙袋のベストを着て腕に紙を巻き、落葉の中央に立つ）にみんながつくった木の葉を貼り付けてください。それぞれの葉っぱを一斉に妖精にくっつけるので、妖精が萎縮する。貼り付けが終わると、ホワイトボードには、「♪あきのはっぱがおちる。おちる。あきのはっぱがおちる。あかいろ、

きいろ、ちゃいろ」と書いてある。これをロンドン橋渡るの替え歌であとで歌うことを告げる。風が吹いてきました。木の妖精はそれに合わせて踊り、木の葉を落とす。最後にみんなで替え歌を歌って終わる。25分。

※時間ぴったり。この季節に秋の感じが出てましたね。常緑樹をうまく使いました。ただ、拾ってきた葉っぱを広げたとき、虫もいましたね。ひょっとすると刺す虫かも。リスクマネジメントを。それと後で手を洗うことを。また、はさみを使いますね。アイデア満載ですが、妖精がいじめにならないように注意が必要です。トラック7をかけるとか、紅葉や黄葉、落葉樹や常緑樹の話につなげると幅が出ますね。持ってきた落ち葉は元の場所に還すといね。



10. 全体のふりかえり

ふりかえりは、前記項目で※印の部分話し、グループで体験して感じたこと、気づいたこと、学んだことを共有して、個々でノートテキング。

体験学習法の流れの説明と子どもと一緒に身近な自然を楽しむための注意事項を話す。最後に質問の時間をとる。個々の感想を一言、紅葉のポストイットに書いてPLTの木を完成させる。今日の木はどんな木になったのか。みんなで見る。



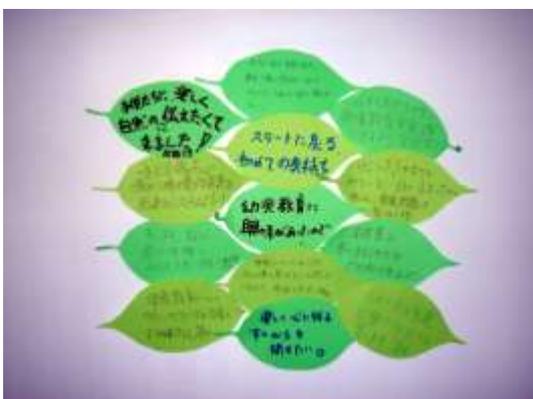
11. アンケートの実施、IDとパスワード、修了証の授与、記念写真

アンケートの提出、HPのIDとパスワードを掲示。修了証を授与し、記念写真を撮る。



12. 終了、片付け、解散、撤収

参加者の皆さんで、机などの備品を元の状態に戻し、解散。終了。



■緑の葉っぱ



■紅葉の葉っぱ

<感想>

四国ではじめての試みだったし、会場も初めてでした。2～3時間講習では、初体験の方はよくわからないのではとの思いから木と仲良くなるための基礎知識やPLTに関する情報を資料として配布した。また、プログラムも構成した。通常は、国営公園内の研修室を利用してPWなどの講習会を実施していたが、遠いのと車でしか参加できないという理由から高松開催をとという声を聞いていた。そのため、PLTは高松で実施しようと思っていた。会場は、市の中心部、市役所前の中央公園にある国際交流会館。木々も大きく種類も多い。場所は、公共交通も近く便利。下見時に市役所で樹木配置図を入手した。今回の講習会を行うための準備が大変であった。これまでの自然観察資料から樹木関連のものを選定し、ラミネート。絵本なども少し買い足した。参考となる小道具づくりも。ただ、今回、時間配分で少しミスをした。通常なら前日に設営を終え、当日は手ぶらで会場に入るのだが、会場への搬入搬出は、利用時間内で行わなければならなかったこと。設営と撤収の時間を考慮して10時からの開始としたが、いつもより1.5時間時短になってしまった。そのために細かい指導ができなかったことが悔やまれる。参加者のことばや雰囲気から「楽しかった。」「夢中になった。」「体や心が動いた。」この3つは感じられたので、まずはホッとしている。アイスブレイクをやっているとき、これはもう少し時間をとったほうがいいと判断し、場が落ち着くまで時間をとった。その分、実体験の時間が不足してしまった。次回は、別バージョンでと思っている。参加者が葉っぱに書いた目的と体験後の感想を列記する。

緑の葉っぱ：子どもたちに木の面白さをどんなふうに伝えよう・リビング高松を見て目に止まったから。もちろん、環境問題は気になる・とにかくわかりやすい環境教育を実践できるように学びたい・幼児教育に興味があったので・スタートに戻る初めての気持ち・もともと自然が好き。現在、3歳の息子がいるのでこれからも子どもと共に自然に親しみたい・木、林、森での遊び体験を。伝える工夫と方法の習得・子どもの成長に豊かな環境体験のできるシステムづくり・子どもたちに楽しく自然のことを伝えたくて来ました・環境について少しでも多くのことを学びたいと思っているので来ました・楽しく心に残る木のWSを開きたい・小さい子どもたちと楽しみたい・環境教育についてカウンセリングができるようになるために（順不同）

紅葉の葉っぱ：楽しく学べた。幼児たちに体験して欲しい・新しい第一歩！ただ、0にも子どもにも戻るのは難しい・自然に親しんでいるつもりだったが、教えるという作業をすることで知らなかった、気づいてなかったことが多いことがわかった・今までまったく体験がなかった幼児期の環境体験について自分なりに学習習得できたと思う。少しは環境教育に対するカウンセリングの第一歩が踏めた・ねらいをストレートに実践する、わかりやすい活動を考える。幼児の気持ちになって体験活動を考えるのは、難

しかった・楽しかったです。子どもたちに伝えたいと思います・小さい子どもを対象にしたアクティビティが少し実践できるかな・積極性に欠けるので自分の意見をいいたくてもいえない。環境について少しは学べたと思うし、童心に戻ったような気持ちになり、楽しく過ごせました・相手のことを思いやる気持ちを大切に・子どもの目、心に戻って木（自然を見ること）が大切だと思いました・子どもの成長に豊かな環境体験のできるシステムづくり。このシステムづくりがわからなかった・PLTについての理解が深まった・楽しかった・幼児期から自然とふれあえるように大人がうまくフォローしてあげて自然に親しんで欲しい

（順不同）

以上であるが、次回、部分的に修正をして実施していきたいと思う。また、学校教育においても選択肢が広がり、幅ができたと思う。幼児の場合、よく so what を期待しても理解できないというが、ことばかけの方法によっては、次につながるとしている。機会を得れば継続していきたい。自己評価 80 点。

（井上 記）